# 伝法の虎御前の腰掛石

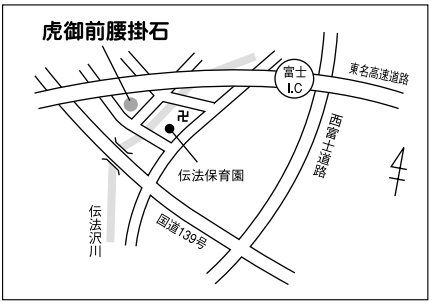
平成六年十一月五日号

伝法三丁目から伝法沢を渡って約百メートル西側（片宿）に「虎御前の腰掛石」があります。鷹岡、丘地区には曽我兄弟にまつわる史跡がいくつかありますが、腰掛石もその一つ。

今回は、曽我十郎の愛人、虎御前にまつわるお話について、腰掛石を大切に祭っている大木何久利さんに語っていただきました。

鎌倉時代の建久四年（一一九三年）に源頼朝、工藤祐経たちが、富士山のふもとへ巻狩りにやってきました。

父のかたき工藤祐経が、源頼朝とともに巻狩りへ出かけたことを知った曽我十郎、五郎の兄弟は、母に巻狩り見物に行くのだと偽って、工藤祐経を討つために曽我の里（今の小田原市内）を出発しました。




曽我兄弟が出発した後、兄の十郎の愛人虎御前は、二人のことが心配で、いても立ってもいられません。ついに大磯を旅立った虎御前が、ようやくたどり着いたのは今の片宿あたり。人々に兄弟のうわさを聞いたところ、五月二十八日の夜、二人は見事本懐を遂げたものの、兄の十郎はその場で討たれて死に、

▶ 虎御前の腰掛石

弟の五郎は次の日に首を切られたことを知りました。愛する人がもうこの世にはいないことを聞いた虎御前は、張り詰めた気持ちが一気に破れ、流れる涙をふきもせず、そばの石に崩れるように腰かけたと伝えられています。

## 大木何久利さん（厚原）

この腰掛石の横を流れる小川の水で、石を洗ってやると腰が治るという言い伝えから、昔はお参りする人も多かったようだよ。私が小さいころは、近所の人だけじゃなく、鷹岡や天間から木の宮神社へお参りに行く途中、腰掛石に拝んでいった人もいたなぁ。

毎年五月二十八日（曽我十郎の命日）は、近所の人や私の親せき、仕事仲間などが集まって、お祭りをしているんですよ。